

## K断層 破碎部性状 H24-B'-1 深度7.50~10.93m(肉眼観察による断層岩区分(1/3))

- ・深度7.50~7.90mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織もマンガン汚染のため不明瞭であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度7.90~7.91mの「粘土状破碎部(Hc-1)」と記載の箇所については、粘土の直線性に乏しいが連続しており、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。
- ・深度7.91~9.48mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

### 破碎部性状の記事

#### ●7.50~10.93m: 破碎部(K断層)

##### 7.50~7.90m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)

上端傾斜不明, 下端45°, 径2~20mmの岩片多いが, 岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように幅1~3mmの白色粘土脈が分布する。7.70m以深ではマンガン鉱染が著しい。明黄褐~黒褐色を呈する。幅28cm。

##### 7.90~7.91m: 粘土状破碎部(Hc-1)

上端45°, 下端45°, 径1mm前後の石英粒が点在する。にぶい黄橙色を呈する。幅6~10mm。

##### 7.91~9.48m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)

上端45°, 下端71°, 径10~20mmの岩片主体で, 岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように白色~淡褐色~暗褐色の粘土脈が幅1~3mmで分布する。8.46mに58°の消滅しかかっている褐色風化割れ目が残留し, 割れ目周辺の2~3cm間に径0.5mmの微小な黄鉄鉱が晶出している。9.30m以深に, 径1~5mmのマンガン粒が点在する。浅黄橙~明黄橙~にぶい黄橙色を呈する。幅56~110cm。

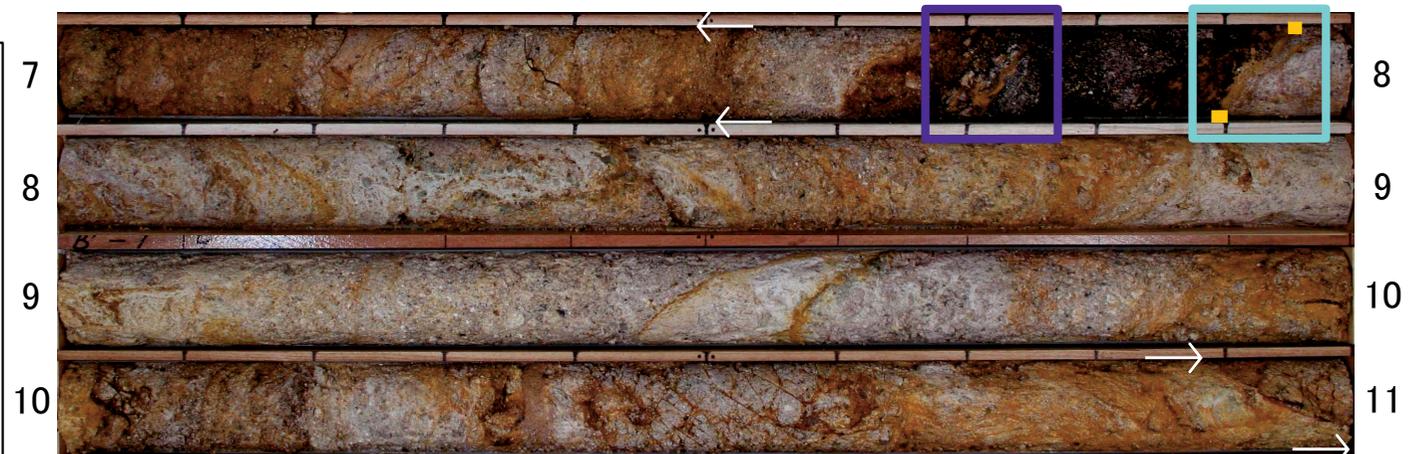
##### 9.48~9.58m: 礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)

上端70°, 下端60°, 白~淡黄褐色軟弱粘土と岩組織が消滅した径5~10mm花崗斑岩岩片2%程度含む。岩片も粘土化し軟質上・下端は幅1~5mmで風化により褐色化する。浅黄橙色を呈する。幅35~80mm。

##### 9.58~10.93m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)

上端60°, 下端70°。10.36~10.38m スライム(コアの供回りによるもの)。10.43~10.61mに岩組織明瞭で, 割れ目も残留する花崗斑岩が中石として分布する以外は, ほぼ岩組織と割れ目が消滅した岩片と岩片間の粘土化部からなる。10.61m以深では, 60°前後の風化褐色割れ目の一部が残留している。10.93m, 厚さ1~2mmで70°でやや波打つ褐色粘土が分布する(コア全区間に連続しない)。にぶい黄橙~明黄褐色を呈する。幅51~67cm。

### コア写真



連続性及び直線性に乏しい粘土

深度7.90~7.91mの連続性の良い粘土



青砕部拡大

0 5 cm



水色砕部拡大

0 5 cm

## K断層 破碎部性状 H24-B'-1 深度7.50~10.93m(肉眼観察による断層岩区分(2/3))

- ・深度9.48~9.58mの「礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度9.58~10.93mの「粘土混じり礫状破碎部(Hj)」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度10.93mの「褐色粘土」と記載の箇所については、やや軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められないが、細粒部はせん滅し連続性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

### 破碎部性状の記事

#### ●7.50~10.93m: 破碎部(K断層)

##### 7.50~7.90m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)

上端傾斜不明, 下端45°, 径2~20mmの岩片多いが, 岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように幅1~3mmの白色粘土脈が分布する。7.70m以深ではマンガン鉱染が著しい。明黄褐~黒褐色を呈する。幅28cm。

##### 7.90~7.91m: 粘土状破碎部(Hc-1)

上端45°, 下端45°, 径1mm前後の石英粒が点在する。にぶい黄橙色を呈する。幅6~10mm。

##### 7.91~9.48m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)

上端45°, 下端71°, 径10~20mmの岩片主体で, 岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように白色~淡褐色~暗褐色の粘土脈が幅1~3mmで分布する。

8.46mに58°の消滅しかかっている褐色風化割れ目が残留し, 割れ目周辺の2~3cm間に径0.5mmの微小な黄鉄鉱が晶出している。9.30m以深に, 径1~5mmのマンガン粒が点在する。浅黄橙~明黄橙~にぶい黄橙色を呈する。幅56~110cm。

##### 9.48~9.58m: 礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)

上端70°, 下端60°, 白~淡黄褐色軟弱粘土と岩組織が消滅した径5~10mm花崗斑岩岩片2%程度含む。岩片も粘土化し軟質上・下端は幅1~5mmで風化により褐色化する。浅黄橙色を呈する。幅35~80mm。

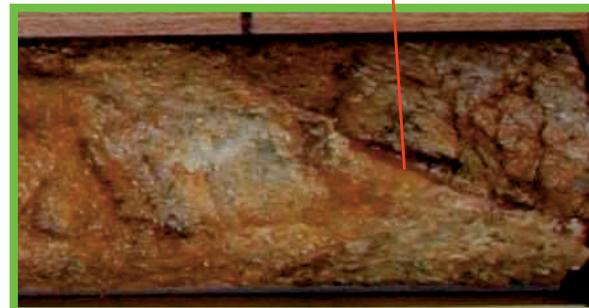
##### 9.58~10.93m: 粘土混じり礫状破碎部(Hj)

上端60°, 下端70°。10.36~10.38m スライム(コアの供回りによるもの)。10.43~10.61mに岩組織明瞭で, 割れ目も残留する花崗斑岩が中石として分布する以外は, ほぼ岩組織と割れ目が消滅した岩片と岩片間の粘土化部からなる。10.61m以深では, 60°前後の風化褐色割れ目の一部が残留している。10.93m, 厚さ1~2mmで70°でやや波打つ褐色粘土が分布する(コア全区間に連続しない)。にぶい黄橙~明黄褐色を呈する。幅51~67cm。

### コア写真



連続性に乏しい粘土



緑枠部拡大

0 5 cm

#### 凡例

- 断層ガウジ
  - 破碎部範囲※
- ※: 写真上は白色で記載

# K断層 破碎部性状 H24-B'-1 深度7.50~10.93m(肉眼観察による断層岩区分(3/3))

・なお、深度10.36~10.38mのほぼ水平に分布するにぶい橙色の細粒部については、コア掘削時のコアの供回りによるものであり、当該区間付近のBHTV孔壁展開画像には、水平方向に分布するにぶい橙色の細粒部は認められない。

## 破碎部性状の記事

### ●7.50~10.93m:破碎部(K断層)

7.50~7.90m:粘土混じり礫状破碎部(Hj)  
 上端傾斜不明, 下端45°, 径2~20mmの岩片多いが, 岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように幅1~3mmの白色粘土脈が分布する。7.70m以深ではマンガン鉱染が著しい。明黄褐~黒褐色を呈する。幅28cm。

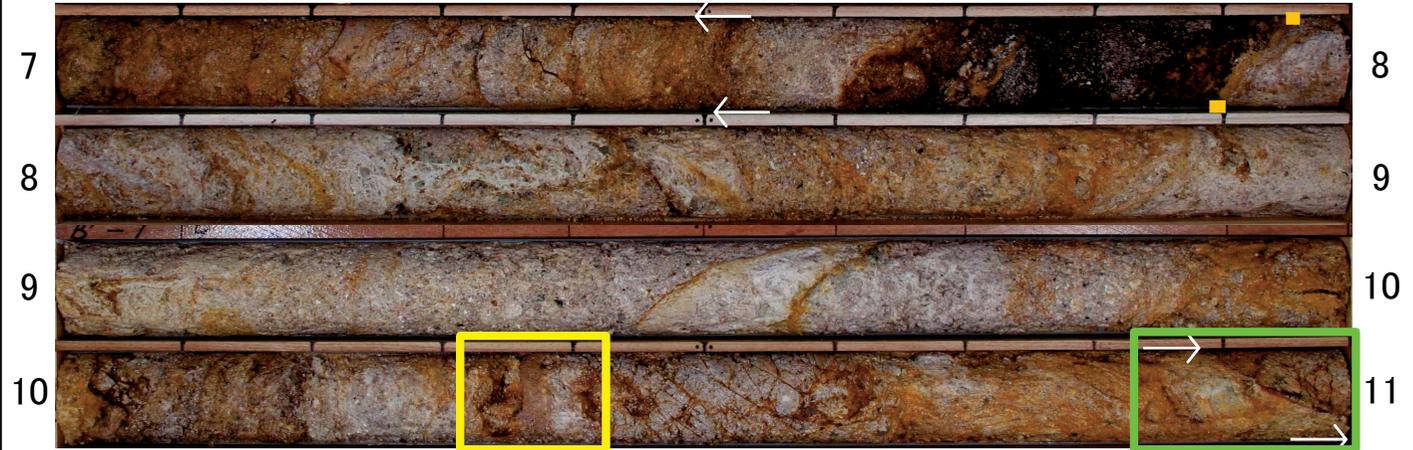
7.90~7.91m:粘土状破碎部(Hc-1)  
 上端45°, 下端45°, 径1mm前後の石英粒が点在する。にぶい黄橙色を呈する。幅6~10mm。

7.91~9.48m:粘土混じり礫状破碎部(Hj)  
 上端45°, 下端71°, 径10~20mmの岩片主体で, 岩組織はほぼ消滅している。岩片間を縫うように白色~淡褐色~暗褐色の粘土脈が幅1~3mmで分布する。8.46mに58°の消滅しかかっている褐色風化割れ目が残留し, 割れ目周辺の2~3cm間に径0.5mmの微小な黄鉄鉱が晶出している。9.30m以深に, 径1~5mmのマンガング粒が点在する。浅黄橙~明黄橙~にぶい黄橙色を呈する。幅56~110cm。

9.48~9.58m:礫混じり粘土状破碎部(Hc-2)  
 上端70°, 下端60°, 白~淡黄褐色軟弱粘土と岩組織が消滅した径5~10mm花崗斑岩岩片2%程度含む。岩片も粘土化し軟質上・下端は幅1~5mmで風化により褐色化する。浅黄橙色を呈する。幅35~80mm。

9.58~10.93m:粘土混じり礫状破碎部(Hj)  
 上端60°, 下端70°。10.36~10.38m スライム(コアの供回りによるもの)。10.43~10.61mに岩組織明瞭で, 割れ目も残留する花崗斑岩が中石として分布する以外は, ほぼ岩組織と割れ目が消滅した岩片と岩片間の粘土化部からなる。10.61m以深では, 60°前後の風化褐色割れ目の一部が残留している。10.93m, 厚さ1~2mmで70°でやや波打つ褐色粘土が分布する(コア全区間に連続しない)。にぶい黄橙~明黄褐色を呈する。幅51~67cm。

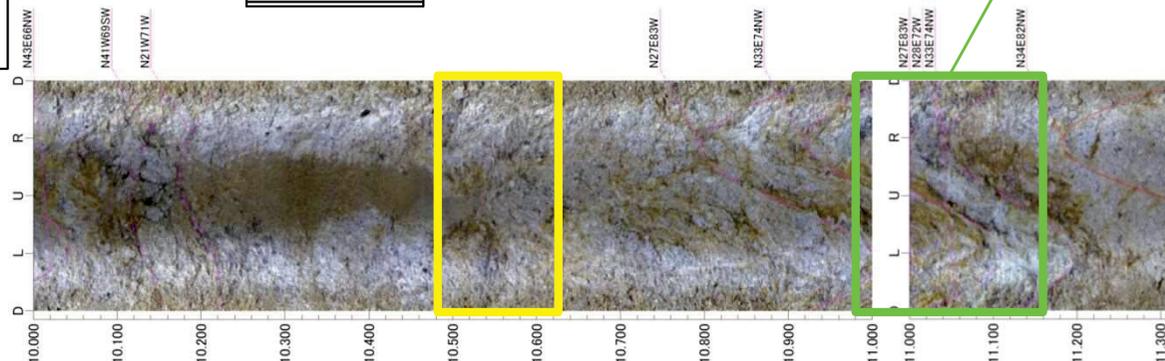
## コア写真



黄色砕部拡大 0 5 cm

凡例  
 — 断層ガウジ ← → 破碎部範囲※  
 ※: 写真上は白色で記載

・深度10.93mの破碎部下端面  
 コアとBHTV孔壁展開画像の深度は約16cmずれている。

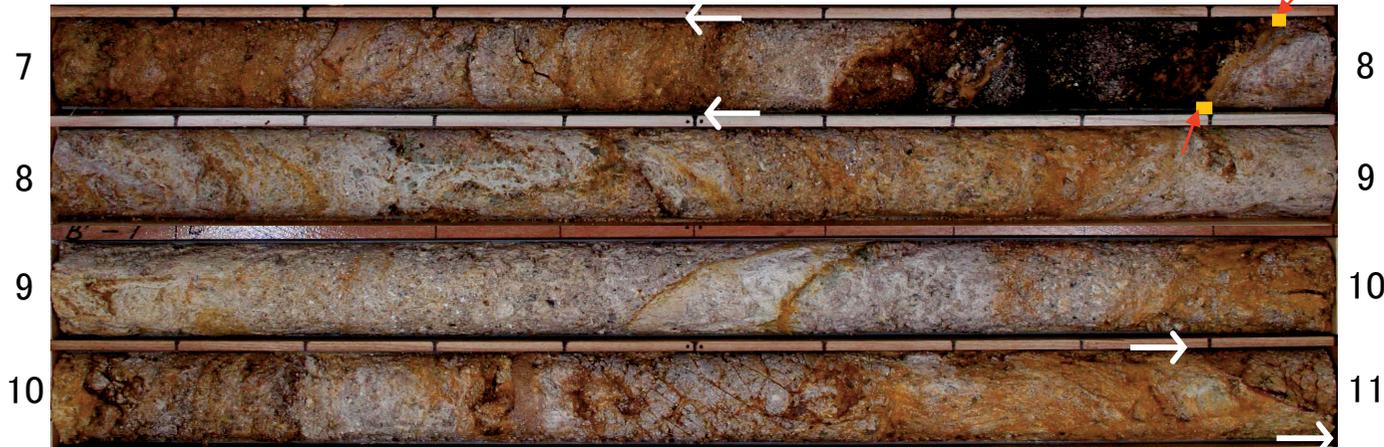


# K断層 破碎部性状 H24-B'-1 深度7.50~10.93m(薄片作製位置)

・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

コア写真



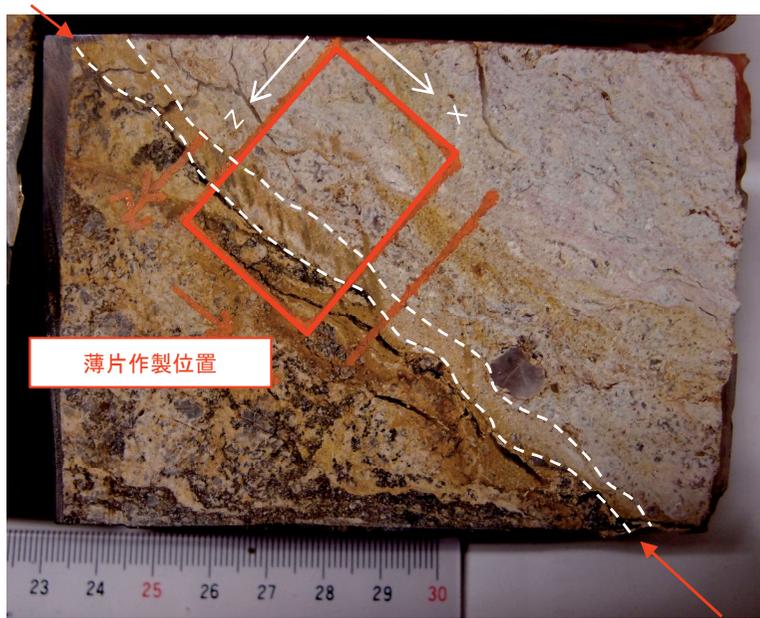
凡例

← → 破碎部範囲※  
 ※: 写真上は白色で記載

■ 断層ガウジ

↘ 断層面

薄片作製位置写真



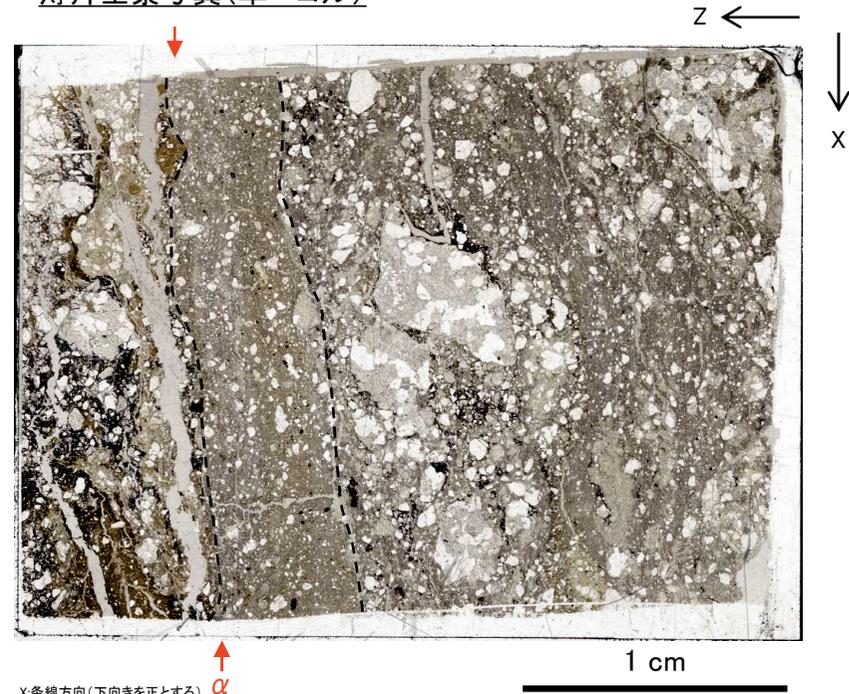
X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例

↘ 断層面

----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※  
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)